

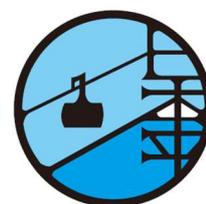


# 安全報告書 2024

索道事業



街にいろどりを。人にときめきを。



NIHONDAIRA  
ROPEWAY

<b>1. ごあいさつ</b>	<b>2</b>
<b>2. 安全方針と安全行動規範</b>	<b>3</b>
2-1. 安全方針	3
2-2. 安全行動規範	3
<b>3. 安全管理体制</b>	<b>4</b>
3-1. 輸送の安全確保に向けた体制	4
3-2. 安全管理のためのPDCAサイクル	5
<b>4. 2024年度 事故・障害等に関するご報告</b>	<b>13</b>
4-1. 事故発生件数等	13
<b>5. 安全確保のための取組</b>	<b>14</b>
5-1. 安全設備と資質管理	14
5-2. 安全運行を支える人財	15
5-3. 係員に対する教育訓練	16
5-4. 防災・防犯、その他の対策	17
<b>6. お客様・地域の皆様へのご協力をお願い</b>	<b>20</b>
6-1. ロープウェイ乗車時のお願い	20
6-2. 不審者・不審物について	21
6-3. AED（自動体外式除細動器）について	21
6-4. 事故・災害等発生時の運行について	22
<b>7. お客様・地域の皆様とのコミュニケーション</b>	<b>23</b>

# 1. ごあいさつ

## 安全・安心・快適のあくなき追求



代表取締役社長  
川井 敏行

日頃より、静岡鉄道ならびに静鉄グループにご愛顧を賜り、誠にありがとうございます。また、地域の皆様におかれましては、鉄道事業運営に格別なるご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループは、個人消費の持ち直しや設備投資の堅調な動きが見られるなど、景気が緩やかな回復基調にある中において、「安全・安心・快適のあくなき追求」の経営理念に基づき、安全かつ質の高い商品・サービスを提供し、地域のお客様に安心と快適を届けるべく事業活動を推進してまいりました。

2024年度は人流が回復し、コロナ禍前の水準となりました。一方で、不安定な国際情勢による世界経済の減速リスク、金利や物価の上昇、慢性的な人手不足等により、依然として先行き不透明な状況が続きました。

このような状況のなか、当社グループにおきましては「中期経営計画2025」に基づき、グループ全体の守るべき財務規律の定着と各社自律性の追求により事業の健全な維持・成長、従業員のウェルビーイング向上の実現に向けたアクションプランの実行に取り組んでおります。

当社索道事業におきましては、より一層安全への意識を高め、日々業務に取り組んでおります。輸送の安全確保に関する基本方針である「安全方針」や「安全行動規範」のもと、社員一丸となって安全輸送に注力し、法令や規程の遵守、自然災害へ備えております。そして、輸送の安全を確保することを最大の使命と考え、日々の業務において継続的改善によるスパイラルアップを図り、安全対策に努めております。

2024年度は、お客様に安心してご利用いただくため、警察と合同でさすまた使用方訓練、日本平消防署と合同で応急下降訓練、旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練等異常時に備えた訓練を実施しました。

なお、本報告書は鉄道事業法第19条の4に基づき、2024年度に実施いたしました安全重点施策、輸送の安全確保のために取り組んだ施策につきまして、皆様に広くご紹介し、安全輸送に役立てていくものであります。

今後につきましても、お客様からより信頼される鉄道事業者となるよう努めてまいります。内容につきまして、お気づきの点がございましたら、是非ご意見・ご感想をお寄せください。

## 2. 安全方針と安全行動規範

静鉄グループは、交通運輸事業だけでなく、すべての事業において「安全・安心・快適のあくなき追求」を経営理念としております。

索道事業では、2006年10月に「索道安全管理規程」を定め、輸送の安全を確保するための基本的な姿勢を示した「安全方針」、その行動の基本となる規範を示した「安全行動規範」を策定し、索道事業に従事する全社員が一丸となって輸送の安全を確保するための取組を行っております。

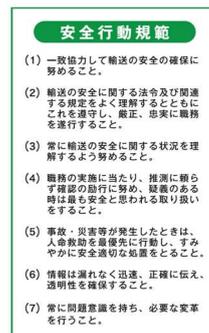
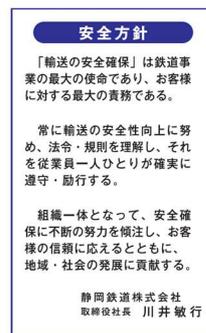
### 2-1. 安全方針

- ◆「輸送の安全確保」は鉄道事業の最大の使命であり、お客様に対する最大の責務である。
- ◆常に輸送の安全性向上に努め、法令・規則を理解し、それを従業員一人ひとりが確実に遵守・励行する。
- ◆組織一体となって、安全確保に不断の努力を傾注し、お客様の信頼に応えるとともに、地域・社会の発展に貢献する。

### 2-2. 安全行動規範

- (1) 一致協力して輸送の安全の確保に努めること。
- (2) 輸送の安全に関する法令及び関連する規定をよく理解するとともにこれを遵守し、厳正、忠実に職務を遂行すること。
- (3) 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること。
- (4) 職務の実施に当たり、推測に頼らず確認の励行に努め、疑義のある時は最も安全と思われる取り扱いをすること。
- (5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。
- (6) 情報は漏れなく迅速、正確に伝え、透明性を確保すること。
- (7) 常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと。

「安全方針」「安全行動規範」は、点呼時や朝礼の際に定期的に唱和することにより周知徹底を図っています。また、職場に掲示するだけでなく、常に携帯できるようカードを作成し、全社員に配布することで安全最優先の風土醸成に努めております。



携帯用カード

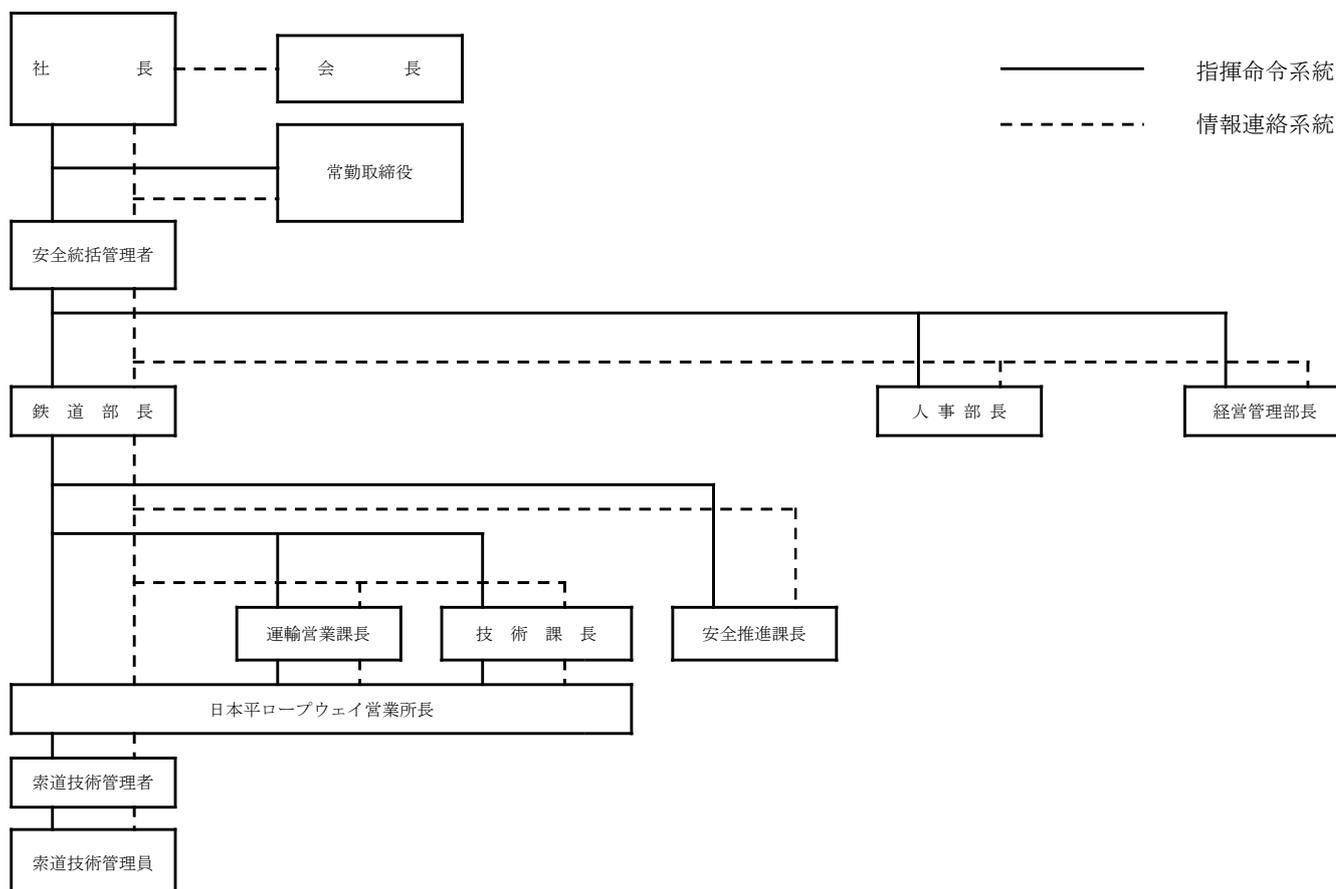
# 3. 安全管理体制

当社では、2006年に改正された鉄道事業法に基づき「索道安全管理規程」を制定しております。索道安全管理規程では、社長を最高責任者として各管理者の責任を明確にした上で各種施策を実行するとともに、その検証と改善を行うことで、安全性向上のためのPDCAサイクルを確実に実行し、輸送の安全水準の維持および向上に努めております。

## 3-1. 輸送の安全確保に向けた体制

社長	輸送の安全確保に関する最終的な責任を有する。
安全統括管理者	輸送の安全確保に関する業務を統括する。
鉄道部長	安全統括管理者を補佐する。
日本平RW営業所長	安全統括管理者の指揮の下、索道事業の輸送に関する業務を行なう等、安全統括管理者を補佐する。
索道技術管理者	安全統括管理者の指揮の下、索道の運行管理、索道施設の保守管理、その他の技術上および教育訓練等の事項に関する業務を統括管理する。
索道技術管理員	索道技術管理者の指揮の下、索道技術管理者の行う業務を補助する。
経営管理部長	輸送の安全確保に必要な設備投資、財務に関する事項を統括する。
人事部長	輸送の安全確保に必要な要員に関する事項を統括する。
安全推進課長	安全統括管理者の指揮の下、内部監査、事故防止施策の推進に関する事項を統括する。

### 安全管理体制図



## 3-2. 安全管理のためのPDCAサイクル

輸送の安全を確保するためには安全管理体制にPDCAサイクルを組み込み、継続的に見直し・改善を図ることが重要となります。PDCAサイクルとは「計画を立て、それを実行し、そして自らの取組をチェックし、見直しを行う」ことであり、当社では、その考えに基づき各種取組を行っております。

### ■ PDCAサイクル

#### Act (改善)

- ・ 計画の見直し
- ・ 次年度計画への反映

#### Plan (計画)

- ・ 安全方針
- ・ 安全目標
- ・ 安全重点施策

Act (改善)

Plan (計画)

Do (実行)

#### Check (確認)

- ・ 内部監査の実施
- ・ 安全マネジメント会議の実施
- ・ 取組の評価・振り返り

Check (確認)

#### Do (実行)

- ・ 計画の実行
- ・ 取組の実施

### (1) 安全目標・安全重点施策 (2024年度)

安全方針に基づき、輸送の安全を確保するため、安全目標および安全重点施策を策定しております。2024年度は、以下の内容について、教育・訓練や施設の整備を実施いたしました。

### ■ 安全目標 (2024年度)

#### 運転無事故の完遂

安全目標を達成するため、様々な安全性向上施策に取り組んでおります。その結果、2024年度も運転無事故を達成することができました。

## ■ 安全重点施策（2024年度）

安全目標を達成するための具体的な取組計画を安全重点施策として定めております。

### ① 経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上

1. 安全統括管理者とのディスカッション
2. 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知

### ② 社内外の事故情報の収集・活用による安全性の向上

1. 社外で発生した事例を必要に応じて随時案マネ会議にて報告・分析

### ③ 様々な状況における対応方の理解向上

1. 消防と合同で最深部における応急下降方確認
2. 警察と合同によるさすまた使用方訓練
3. 旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練

### ④ DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上

1. 点検・報告業務のシステム化の展開
2. ヒヤリ・ハット総報告件数30件
3. ヒヤリ・ハットに関する動画、eラーニング等を活用した教育

### ⑤ 自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現

1. 2号柱土砂崩れ箇所補修工事
2. 久能山駅舎耐震補強工事



## ① 経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上

### 1. 安全統括管理者とのディスカッション

安全統括管理者と現場社員が業務における課題や問題について直接議論し、安全に対する考え方や改善すべき点を共有することで、安全意識の向上に繋げております。安全に関する施策や部方針等について、現場目線での気づきをもとに、建設的な意見交換を行うことができました。



営業・技術系社員とのディスカッションの様子

## 2. 動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知

安全重点施策は、鉄道部全社員で内容の共有を図るために解説動画を作成し、社内で共有をしています。さらに、eラーニングの教材を作成し、動画視聴と合わせて内容の周知徹底を図る取組を行っております。

(5) 事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること。

<鉄道事業>

中期到達目標（2023～2025年度）	2024年度実施事項
様々な状況における対応方の理解向上	【異常時対応訓練】警察と合同で運行中の列車内等の高度な状況における対応訓練
	【異常時対応訓練】消防と合同での異常時対応訓練
	【災害対応訓練】地震発生時の現地対策班の対応訓練



安全重点施策解説動画の様子

小テスト

### 1.安全重点施策の根拠について

時間の目安：3分 合格点：10点 満点：10点

問題 1: (配点 10点)

安全重点施策は何に基づいて設定されていますか。

- 労働基準法
- 鉄道事業法
- 経営理念
- 運輸安全マネジメント制度

次へ >

eラーニングの画面

## ② 社外事例を活用した安全性向上

### 1. 社外で発生した事例を必要に応じて随時安マネ会議にて報告・分析

中部運輸局より提供される保安情報をもとに、当社における同種事象の発生可能性について、影響の大きさ・発生頻度・当社における発生可能性の観点から、鉄道部長・運転管理者・施設車両管理者が分析を行い、その結果を踏まえ、安全確保に向けた対応策を検討いたしました。

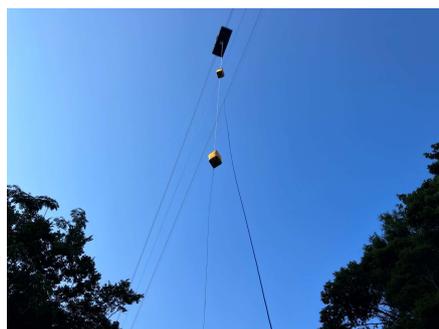
## ③ 様々な状況における対応方の理解向上

### 1. 消防と合同で最深部における応急下降方確認

大規模地震や事故発生等によりロープウェイの運行が不能となった場合を想定し、搬器からお客様を応急下降により救助する訓練を日本平消防署と合同で実施しました。今回は、最深部が約70mに達する2号柱付近を発災地点と仮定し、訓練を行いました。昨年度に実施した応急下降訓練における課題を解決し、今後の安全運行に反映可能な有意義な訓練となりました。



搬器内



最深部での応急下降の様子



下降場所

最深部における応急下降訓練実施の様子

## 2. 警察との合同によるさすまた使用方訓練

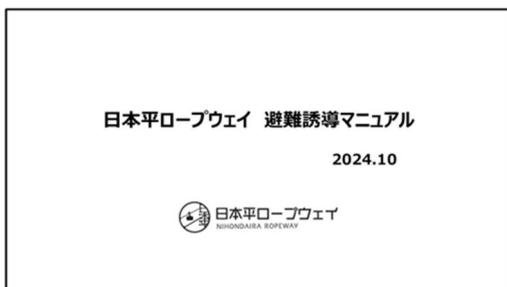
さすまたの設置にあわせて、使用方法に関するレクチャーおよび刃物を所持した不審者を想定した実践訓練を実施しました。有事の際におけるお客様および自身の安全確保を図るとともに、安全体制の強化を行いました。



さすまた訓練の様子

## 3. 旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練

地震発生時の対応方法のルール化・明確化を目的に訓練を実施しました。運行フローや地震発生時の初動対応、英語アナウンスを含む案内すべき内容が記載されているマニュアルを用いて対応方法と避難経路の確認を行いました。



避難誘導マニュアル

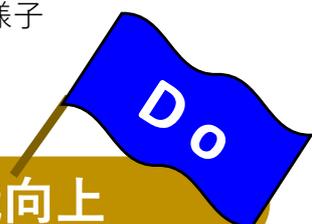


避難経路確認の様子

### ④ DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上

#### 1. 点検・報告業務のシステム化の展開

点検や報告に関する業務は、これまですべて紙ベースで行っていたため、点検時の記入の煩雑さや、点検後のとりまとめに多くの時間を要することが課題となっていました。こうした課題を解決するため、点検記録をデータで保存・蓄積し、振り返りや分析を容易に行えるようにすることで、安全性の向上につなげることを目的として、現場帳票システムを2024年度より導入し、試験運用を開始いたしました。今後は、本格的な運用を進めるとともに、さらなる業務改善と活用の促進に取り組んでまいります。



## 2. 有益なヒヤリ・ハット情報の収集

### ◆ 総報告件数 年30件以上

ヒヤリ・ハットとは、重大な事故や災害に直結しかねないような事例の認知を指します。今後起こり得る事故や災害を未然に防止するために、事例の認知・収集・対応が大切です。

当社ではヒヤリ・ハット情報の報告件数増加や質の向上を目的に、本社担当者が現場に行き、社員から直接ヒアリングを実施しております。また、報告案件への対応を事務所に掲示することで対応を見える化しております。

2024年度は全体を通して30件以上の報告を収集することを目標に取り組んでまいりました。結果として32件の報告を収集でき、ヒヤリ・ハットを元に改善できた事例が多くございました。2025年度も安全意識をより一層高く持ち、安全に向けた改善を継続してまいります。



2024年度ヒヤリ・ハット報告（原因別）

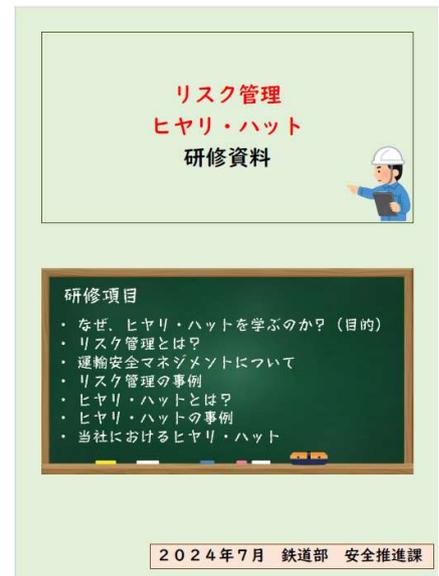
## 3. ヒヤリ・ハットに関する動画、eラーニング等を活用した教育

過去に実際に発生したヒヤリ・ハット事例やヒヤリ・ハットを報告する意義についてまとめた解説用教材を作成し、社内でも共有しています。併せて、eラーニング教材も作成し、内容の周知徹底を図る取り組みを進めております。

ヒヤリ・ハットの理解度向上や「本人の不安全行動」といったマイナスイメージを払拭し、前向きに報告しやすい風土を醸成することを目的としています。

ヒヤリ・ハット事例の収集は、事故や災害の未然防止に役立つほか、社員一人ひとりの安全意識の向上にもつながります。

2025年度においても、さらなる報告数の増加に向けて、継続的に周知活動を実施してまいります。



作成した教材

## ⑤ 自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現

### 1. 2号柱土砂崩れ箇所補修工事

2023年度5月の降雨で土砂崩れが発生したことから、当該土砂崩れの復旧工事を実施いたしました。工事については2025年6月に完了しました。



法面の復旧状況（施工中）



法面復旧工事完了

## （2）安全マネジメント推進委員会

この会議は、安全統括管理者を中心とした各管理者で構成され、事故や故障に関する報告と教育訓練の実施状況、ヒヤリ・ハット情報やその対策等、安全に関する事故の共有と安全管理体制の見直しを目的として毎月1回、経営トップまで参加して実施しております。



会議の様子

### (3) 静鉄グループ運輸安全マネジメント委員会

運輸安全マネジメント体制をグループ横断的に構築していくことを目的に2006年から開催しているもので、2024年度は第19回目の開催となりました。本年度も静岡鉄道株式会社の会議室にて対面での開催となりました。

当日は、常南交通株式会社 取締役社長 笹目様より「常南交通における外国人採用の取組み」と題し、特定技能バス運転士の採用に関して、採用活動において意識している点や特定技能人材の採用手法、さらに定着に向けたノウハウについてご講演をいただきました。また、グループ各社の安全報告書から前年度の取組内容について、安全統括管理者より発表があり、安全に関する課題やその対応策について、グループ内で活発な情報共有と意見交換が行われました。



会議の様子

### (4) 内部監査

「運輸安全マネジメント」における取組みが適切に実行できているかを確認するため毎年1回内部監査を行っております。

監査項目は、国土交通省が策定した「運輸事業者における安全管理の進め方に関するガイドライン」および当社の「鉄道・索道 安全管理規程」とし、監査対象は社長および安全統括管理者、その他各管理者です。内部監査では、各管理者が輸送の安全確保に関する業務にどのように関与し、安全管理体制の構築・改善に取り組んでいるかを確認しており、効果的な取組は評価し、改善が必要であれば助言をするなど、継続的改善に努めております。

### (5) 社長および安全統括管理者巡視

社長および安全統括管理者は、国土交通省が定めた年末年始輸送安全総点検期間（12月10日～1月10日）やその他機会において、現業職場を巡視し、輸送の安全確保への取組み状況や実作業の確認、現業職員との意見交換を行い、綿密に安全管理体制の確認を行っております。



社長巡視



安全統括管理者巡視

## (6) 安全目標・安全重点施策 (2025年度)

2025年2月に開催された「安全マネジメント推進委員会」において、2024年度安全目標および安全重点施策について振り返りを行いました。その結果、2025年度の安全目標は「運転無事故の完遂」とし、安全重点施策は基本理念と中期到達目標を整理したうえで選定しました。基本理念は安全行動規範の内容と一致させ、その理念に合った2025年度に到達すべき目標を中期到達目標としています。

### ■ 安全目標

## 運転無事故の完遂

### ■ 安全重点施策

基本理念	中期到達目標 (2023~2025)	2025年度実施事項
一致協力して輸送の安全の確保に努めること	経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画、eラーニング等を活用した安全重点施策の周知</li> </ul>
事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること	様々な状況における対応方の理解向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅客誘導を含む地震発生時の対応訓練</li> <li>南海トラフ地震臨時情報判断結果ごとの対応方確認</li> </ul>
常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと	DXの推進・自発的に事故の芽を発見する意識向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなDX化の検討</li> <li>ヒヤリハット総報告件数30件</li> <li>動画、eラーニング等を活用したヒヤリハット教育</li> </ul>
輸送の安全を確保するための施設・設備投資を適切に行うこと	自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル傾度計設置</li> <li>2号柱土砂崩れ箇所補修工事完了</li> <li>駐車場南面崩落箇所の対策検討</li> <li>久能山駅舎耐震補強工事設計</li> </ul>

2025年度も、目標達成に向け社員一丸となって安全確保に努めてまいります。

# 4. 2024年度事故・障害等に関するご報告

## 4-1. 事故発生件数等

2024年度の事故等の発生を以下の通り報告します。

### ①索道運転事故

該当事象なし

### ②インシデント（事故の兆候）

該当事象なし

### ③行政指導等

該当事象なし

#### ・索道運転事故

国土交通省の鉄道事故等報告規則（省令）に基づく、索条切断事故、搬器落下事故、搬器衝突事故、搬器火災事故、索道人身傷害事故をいいます。

#### ・インシデント

索道運転事故が発生する恐れのあるものをいいます。

# 5. 安全確保のための取組

## 5-1. 安全設備と健康管理

安全で快適なロープウェイの運行を支えるために、ソフト・ハード両面から輸送の安全を確保するための取組を行っております。

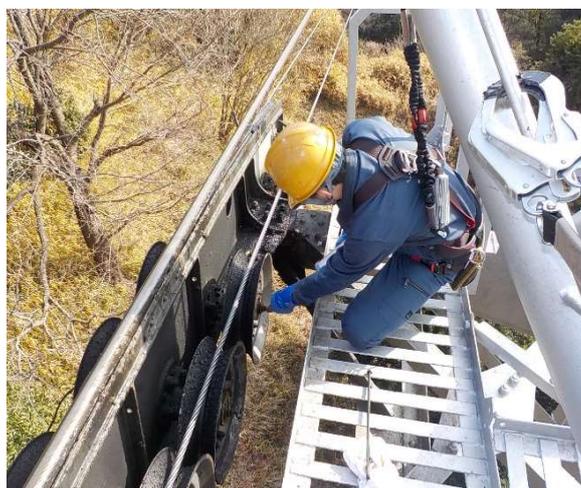
### ①施設の安全対策

日本平駅および久能山駅のホームには柵を設け、転落防止の対策を図っております。また、機器および駅設備の状況を遠方からモニタリングできる設備も整えております。



### ②定期検査・保守について

お客様に安全に、そして安心してご利用いただくため、関係法令および索道整備細則に基づき、始業点検、1ヶ月検査、3ヶ月検査、一年検査等計画的な点検、保守作業を行い安全確保に努めております。



### ③健康管理

出勤点呼時に監督者による健康状態の確認を行うほか、カメラ付き装置によるアルコールチェックを係員全員が実施しており、健康診断も定期的に受診しております。



アルコールチェックの様子

## 5-2. 安全運行を支える人財

### ①営業・ガイド係

日本平駅・久能山駅では切符を販売しているほか、搬器へのスムーズな乗降を促すためにガイドによる誘導を行っております。多客時にお客様をできる限りお待たせしないよう、迅速な案内に努めております。



## ②技術係

日本平と久能山駅間の約1 kmは3本の鉄塔とロープ（支索）で結ばれております。点検は約50 mの鉄塔やゴンドラの上で行うものもあり、危険を伴います。そのため、係員は作業前に念入りに準備を行うほか、日頃も教育により索道保守技術や安全対策について、知識や技能の向上に努めております。



### 5-3. 係員に対する教育訓練

輸送の安全を確保する上で、知識技能の維持および向上は不可欠であるため、当社では年間教育訓練計画に沿って、係員に対する教育・訓練を定期的実施しております。

#### ■ 異常時訓練

##### ◆ 予備原動機巻き上げ訓練

電力の供給がストップした場合を想定し、ディーゼル動力を使用してゴンドラを両端駅に収容する予備原動機巻き上げ訓練を3ヶ月に1回行っております。



予備原動機の巻き上げを行う様子

## 5-4. 防災・防犯、その他の対策

### ① 風向風速計

輸送の安全を確保するため運転室内には風速計などの機器を設置して常時監視しており、インターネットの活用により雷雲の接近等の監視も行っております。なお、当社では風速が15 m/秒以上となった場合には運転を見合わせます。



風向風速計

### ② 監視カメラ

有事の際、状況を迅速に把握し、対応するために監視カメラを設置しております。このカメラはネットワークへ接続しているため、離れた場所からでも現場の状況を確認することができます。



監視カメラ（日本平駅）

### ③ ドローン点検

中部電力パワーグリッド株式会社様のドローン点検サービスを活用し、通信線の点検を実施しております。

また、2023年度より当社従業員がドローンの運転資格を取得し、大雨や台風発生後等の施設・設備点検を実施しております。ロープウェイの安全性向上はもちろん、従業員の作業時における安全確保にもつながっております。

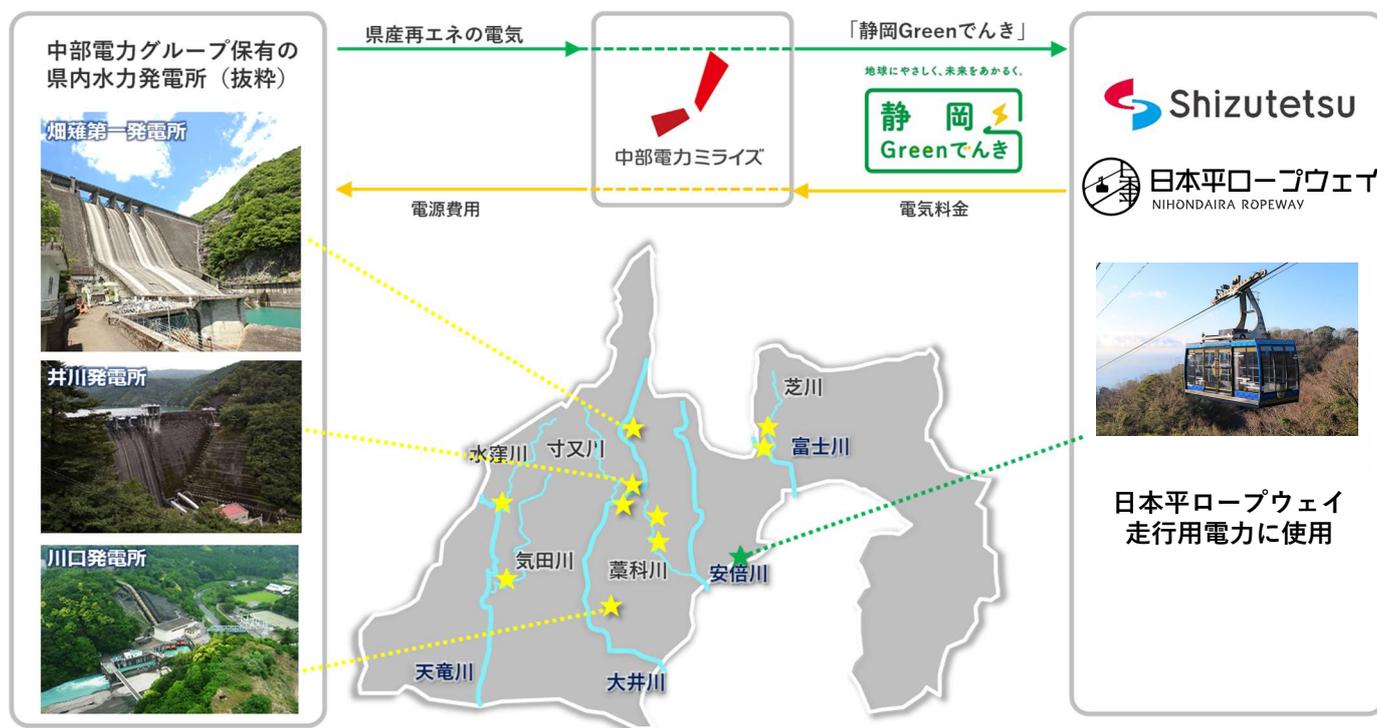


ドローン点検の様子

## ④省エネ・快適性

### ■再生可能エネルギー100%で運行

当社では、2023年度より静岡県内の索道事業で初めて、静岡県産のCO<sub>2</sub>排出量ゼロの電気「静岡Greenでんき」100%による運行を開始しました。「静岡Greenでんき」は、中部電力ミライズ(株)のご協力により、県内に立地する大井川・天竜川・富士川・安倍川の各水系にある水力発電所の再生可能エネルギー由来の環境価値を活用した電気です。当社では、鉄道事業においても県内で初めて「静岡Greenでんき」を導入しており、現在、A3009号(2020年度導入)とA3011号(2022年度導入)、A3012号(2023年度導入)が運行しております。当社では、今後も引き続き、グループ全体で再生可能エネルギーへのシフトを積極的に推進することで、環境負荷低減につなげていきたいと考えております。



# ⑤安全ニュースの発行

安全に関する取り組みをまとめた「安全ニュース」を定期的に発行しております。毎月開催される運輸安全マネジメント推進委員会における社長の発言やヒヤリ・ハット事例の紹介・募集などを掲載しております。鉄道事業の社員だけでなく、全社員が閲覧可能なグループウェアに掲載することで、会社全体で安全意識の高揚に努めております。

## 安全ニュース

企画・編集  
2024年4月発行  
鉄道部  
安全推進課

**1月～3月 運輸安全マネジメント推進委員会 社長訓示(一部抜粋)**

**運輸安全マネジメント推進委員会とは？**

運輸安全マネジメント推進委員会は、経営トップから現場まで一丸となった安全管理体制を適切に構築するために設置されている委員会です。

鉄道・索道における安全への意識をより一層向上するため、月に一度社長・会長を交えて安全態勢や日々の諸問題への対応確認をしております。

**1月**

大きな災害や事故が発生し、安全管理について振り返る年始となった。

直近の事象では、JR東日本の架線事故と高松琴平電気鉄道の信号設備の不備があった。後者は、**経年劣化を放置してしまっただけに問題がある**。日頃の定期点検が、法令で決められているからやっているという風になってないか、点検の目があざなりになっていないかという点に気を付けなければならない。どこにおかしなところがあるのではないかと「常に疑ってかかる」を徹底することの大切さを痛感した。

**2月**

来月から実施する「僕のヒーローアカデミア」のイベントについて、情報発信がうまくいき、ポシティブな声を多くもっている。ブランド活動というものは、そこで働く従業員が「**仕事や会社に誇りを持てる**」ようになるものである。鉄道会社としては、人に注目してもらうことが、**安全活動へつながる**のである。

全国的にもかなり注目をされている内容であり、これまで我々の経験がないほどの事例に対して、活動の意義をきちんと理解し、静岡を訪れるお客様に安全に楽しんでもらえるよう、準備をよろしく願います。

**3月**

昨年5月に新型コロナウイルスが5期に移行したこともあり、人流が本格的に復活した。特に**索道事業は、年間で過去最高の輸送人員**となった。鉄道事業も、定期・定期外ともに利用人員が大幅に伸びた。運賃改定やダイヤ改正も予定通り進捗した中で、1年間無事故に努めた皆さんの努力を労いたいと思う。

また、2023年度安全重点施策の安統管ディスカッションで出た意見を反映させた「電車運転時の西日を避けるためのサングラス導入」を高く評価している。24年度も重点施策を遂行していく中で**新たなもの・革新的なものも導入**されることを期待する。

**4月号ヒヤリハット紹介**

2024年1月～3月のヒヤリハット(事故の芽情報)の中から鉄道部内の投票により、ベストヒヤリハットを決定いたしました。

4月号のベストヒヤリハットは「**隣り第三踏切への歩行者立ち入り**」となりました。

このヒヤリハットは、「踏切内の死角となる箇所に入り込んだ歩行者と列車が接触する可能性がある」という内容でした。少しでも異変を感じた場合は「**安全を第一に対応する**」ということを再確認する良い機会となりました。ヒヤリハットから重大事故を防ぐことができるため、今後も継続して収集と分析に取り組んでまいります。



→ 運転士目線 死角になっている

**2023年度 結果**

鉄道事業 143件/年度目標 80件  
索道事業 26件/年度目標 20件

昨年度より鉄道では54件、索道では10件も報告数が増加しました。

**2024年度 目標**

鉄道事業 年度目標 100件  
索道事業 年度目標 30件

2024年度も目標達成を目指して取り組みましょう！

## 2024年度 鉄道部 安全重点施策

2024年度の重点施策は、2023年度から項目を一部変更した4つの項目をピックアップいたしました。本年は以下の重点施策の下、**運転無事故の完遂**に努めてまいります。

安全目標: 運転無事故の完遂	中期到達目標 (2023～2025年度)	2024年度実施項目
基本理念	経営トップ～現場部門まで一丸となった安全最優先の意識向上	・動画、eラーニング等の活用(鉄道)施設車両管理所が一体となった技術力発表会の実施
(1)一致協力して輸送の安全の確保に努めること		・社外で発生した事例を必要に応じて随時、運輸安全マネジメント推進委員会にて報告・分析
(3)常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めること	社外事例を活用した安全性向上	・高度な状況における警察や消防との合同異時対峙訓練
(5)事故・災害等が発生したときは、人命救助を最優先に行動し、すみやかに安全適切な処置をとること	様々な状況における対応方針の理解向上	・地震発生時の対応訓練
(7)常に問題意識を持ち、必要な変革を行うこと	DXの推進・自発的に事故の身を発見する意識向上	・DX推進による業務効率化(鉄道)自動運転実現に向けた設備の更新
(8)輸送の安全を確保するための施設・設備投資を適切に行うこと	自然災害、従業員の声を踏まえた安全投資の実現	(索道)2号柱土砂崩れ箇所補修工事(索道)久能山駅舎耐震補修工事 一部抜粋

**年末年始総点検**

事業者の自主点検等を通じ安全性の向上を図ることを目的として、国土交通省が定めた年末年始輸送安全総点検期間(12月10日～1月10日)やその他機会において、社長および安全統括管理者が現場職場を巡視し、輸送の安全確保への取り組み状況や業務体制の確立をを行いました。

年末年始の総点検は1月10日をもって終了しましたが、年間を通して引き続き安全輸送に取り組んでまいります。

**安統管ディスカッション**

現場従業員目線での安全に対する意見交換をする機会として、2月21日(水)に当社の安全統括管理者である田中常務とディスカッションを実施しました。現場の従業員は直接、**安統管と現場を交換する機会**はそれほど多くございません。そのため、現場の生の声を経営者に届ける貴重な機会となりました。

今回は、**鉄道と索道での交流を深め、それぞれの安全への対策を学べる場**が欲しいなどのソフト面と、**細か編組下りホム一ムの柱が車イスの方が下りる位置にあり、狭くて危険である**などハード面について日頃現場従業員が気になっている安全対策の意見が出ました。今後は計画的に諸問題の解消をしてまいります。

**日本平ロープウェイ応急下降訓練**

2月20日(火)に大規模地震や事故発生等により、ロープウェイの運行が不能となり、応急下降に合ってお客様を機器より救助する訓練を日本平消防と合同で行いました。今回は、**現在の路線になってから初めて最乗部が約70mある2号柱付近**を発生場所と想定しました。

新しい機器で初めて最乗部で応急下降を実施したことで、**最乗部の訓練(1号柱：高さ5m)では見えていなかった課題**が明らかになりました。課題の原因が判明し、6月に再度日本平消防との合同訓練を実施いたします。

安全ニュース (2024年4月号)

# 6. お客様・地域の皆様へのご協力をお願い

ロープウェイが安全に運行するためには、お客様や地域の皆様のご協力が欠かせません。当社では、案内放送や掲示物でご利用時の注意をお願いしておりますが、皆様に安心してご乗車いただく為にも、安全の確保にご協力をお願いいたします。

## 6-1. ロープウェイ乗車時のお願い

### ■ 手すりには腰かけないでください。

ゴンドラに乗車する際にご利用いただく通路には手すりが設置されております。手すりを必要とされる方もおりますので、その上に腰かけることはおやめください。特に、お子様が腰かけた場合、手すりから転落し、怪我をする恐れもありますので絶対にやめてください。



手すり（日本平駅ホーム付近）

### ■ 危険物は持ち込まないでください。

他のお客様に危険をおよぼす物の持ち込みは禁止しております。

### ■ 乗車中、窓から手をだしたり、物を捨てないでください。

窓から手を出すことは大変危険ですのでおやめください。また、物の投棄はゴンドラの下を通行する方を負傷させる可能性があり、投棄した物が周辺環境へ影響を及ぼすこともありますので絶対におやめください。

### ■ つり革にぶら下らないでください。

けがの原因や他のお客様のご迷惑となりますので、つり革にぶら下るのはおやめください。

### ■ 乗車中、手すりに上らないでください。

手すりに上ると、窓から落下する危険性が高まります。特に小さなお子様をお連れのお客様はご注意ください。ようお願い申し上げます。

### ■ 異常時は係員の指示に従ってください。

停電や故障などでゴンドラが止まった場合は、係員の指示に従ってください。

### ■ その他

- ・ 飲酒酩酊等、公の秩序または善良の風俗に反するような行為があり、他のお客様に迷惑をお掛けするおそれのある場合には、ご乗車をお断りすることがあります。
- ・ ペットをお連れしての乗車をご希望の場合は、小型犬のみゲージ（頭部まで隠れるもの）のご用意があれば一緒にご乗車できます。（介助犬は一緒に乗車できます。）
- ・ ゴンドラ内は禁煙です。
- ・ 狭いゴンドラ内での携帯電話（スマートフォン）を使用した通話は周りのお客様のご迷惑となる場合があります。乗車時は電源を切るかマナーモードにするなどご配慮をお願いいたします。

## 6-2. 不審者・不審物について

### ■ 不審物・不審者を発見された時は、お近くの係員にお知らせください。

不審物発見時には次の3つの原則がありますのでご注意ください。

- ① 触れない
- ② 嗅がない
- ③ 動かさない

万が一不審物等を発見した時は、お近くの係員にすぐにお知らせください。

## 6-3. AED（自動体外式除細動器）について

### ■ 急病のお客様を発見されたときは、お近くの係員にお知らせください。

AED（自動体外式除細動器）は、日本平駅・久能山駅のほか、2016年度よりゴンドラ内にも設置しております。また、係員は消防署のご協力のもと普通救命講習を定期的受講しております。



A E D（久能山駅）



A E D（日本平駅）



A E D（ゴンドラ内）



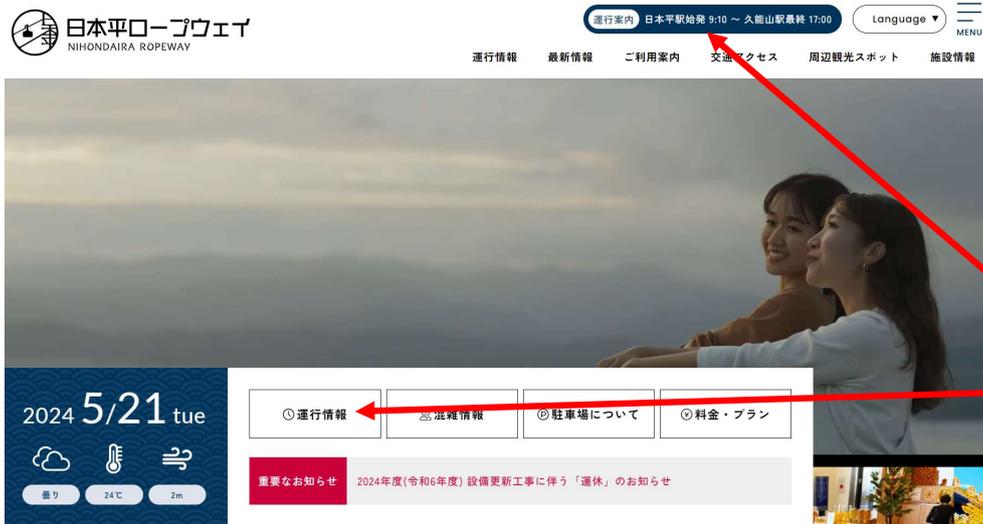
普通救命講習受講の様子

## 6-4. 事故・災害等発生時の運行について

### ■ 運行情報をお知らせしております。

ホームページやSNSを使用して運行情報をお知らせしております。事故や故障、災害等により運休している時、または臨時ダイヤで運行している場合は運行情報を更新いたしますので、お出かけの際にはぜひご確認ください。

- ・ ホームページ：日本平ロープウェイ (<https://ropeway.shizutetsu.co.jp/>)



日本平ロープウェイ  
ホームページ

運行情報はこちらです

日本平ロープウェイホームページ

- ・ Facebook：日本平ロープウェイ (<https://www.facebook.com/zekkeifujisan>)



日本平ロープウェイ  
Facebook

日本平ロープウェイ Facebook

# 7. お客様・地域の皆様との コミュニケーション

## ■ 静鉄グループカスタマーハラスメントについて

「安全・安心・快適のあくなき追求」を経営理念として、お客様や社会と共に歩みながら、持続可能なサービスと価値の提供に努めております。こうした事業活動の中で、従業員とお客様の人権が互いに尊重され、従業員が安心してお客様へのサービスを維持・向上し提供できるよう、「カスタマーハラスメントに対する方針」を策定いたしました。お客様におかれましても、本方針の趣旨をご理解いただき、思いやりのあるご対応にご協力をお願いいたします。



静鉄グループポスター

安全報告書のご感想、  
または安全への取組に関する  
ご意見をお寄せください。

静岡鉄道株式会社 鉄道部 安全推進課

TEL (054) - 254 - 5137

FAX (054) - 273 - 0658

E-MAIL [stktetsu@shizutetsu.co.jp](mailto:stktetsu@shizutetsu.co.jp)